# 九条の樹

101号
2023年6月発行

発行：東久留米「九条の会」　連絡先：℡ 042-473-9489（鈴木）
http://higashikurume-9.net/　メール：higashikurume9j@gmail.com


# 大軍拡、戦争止めよう
## ―中野晃一さん講演②―

2月23日東久留米市生涯学習センターで行われた「くらしを守る革新東久留米の会」主催の講演会の要旨、前号の続きです。

中野 晃一 さん
（上智大学教授）

岸田首相はバイデンさんと会って日本の新防衛方針を確認してもらい、日本へ帰って閣議決定で決めてしまいました。

今、自民党の中に批判する勢力がありません。亀井静香とか、伝統的な保守というか、小泉政権が刺客を立てて追い出してしまいました。その結果アメリカ優先に何も言わない人ばかり、皆おとなしくなってしまいました。

### 米国の利権を日本が支える？

安倍さん以後も軍事、経済、科学技術においてアメリカの覇権を支えることが、日本の安全保障政策上の目標になっています。日本の安全保障は憲法九条の制約を受けているはずですが、いつの間にか日本とアメリカの安全保障政策は100％一致している、という話になっています。アメリカの安全保障というのは、戦争は他国でやるものなので、アメリカが攻められることを考えてはいない。利権、覇権を守るための安全保障であって日本の専守防衛と一致するわけがありません。九条があるのでそれ以上はできない、それなのに日米の安全保障政策は100％一致すると言って進めているのは、アメリカの威を借りて中国を封じ込める、ということです。

バイデン政権は統合抑止と言っていて、一つはアメリカが同盟国と一緒に抑止する。アメリカ一国でやらないで同盟国にもやらせる。もう一つは軍事的に抑止するだけでなく、経済、科学技術面でも抑止していく、その面でも覇権をゆずらないのです。中国がアメリカを侵略するとはだれも思っていません。北朝鮮が大陸間弾道弾を開発していますが、あれは日本を標的にしたものではありません。北朝鮮がアメリカと戦争する気があるのかといえば、あるわけないです。せん滅されてしまう。北朝鮮はアメリカに対して抑止しているつもりなんです。やるならやり返すぞと。それを日本も危ないからミサイル持てとか言ってるわけです。

中国とアメリカも戦争する気はない。アメリカの一部エリートが心配しているのはアメリカの覇権が脅かされ、中国にとってかわられる。軍事はまだ先だが、経済、科学技術で超えられてしまう。それが許せない。アメリカが一番で

2ページへ

なきゃいけない。トランプが言い出してバイデンも対中強硬姿勢を見せないと弱腰だといわれ選挙に負ける。しかし中国に抜かれるのはまずい、それを日本が下支えする。そのことがＴＰＰとか経済安全保障とか言われたり、日本学術会議に介入して軍事研究をやらせようとする動機にあるのです。

**空から爆弾がバラバラと・・・**

同盟というのは他の国と一緒にやる、集団的自衛権と同じです。集団的自衛権は自分が攻められていなくても同盟国が攻められたら一緒に戦うぞと言って相手を威嚇することで抑止しようとすることです。これは抑止に失敗すると戦争の拡大を引き起こすものです。それが抑止の危険なところです。

抑止って何でしょう。日本ではあまり使わないです。相手を威嚇して脅すことで相手の行動を抑える、というアメリカの軍事用語の翻訳です。

抑止という言葉は第２次世界大戦後、核兵器保有国のアメリカが核を保有し続けることを正当化するために作られた理論という側面が強いです。なぜかというと、広島、長崎に２回原爆を落としてあまりにもひどい非人道的兵器だから、戦争を抑止できると言い出したのです。しかしウクライナではプーチンが核の使用をちらつかせ脅すけれども、ウクライナの国民は戦い続けています。核の脅しが効きません。核兵器が使えない。世界を敵に回してしまう。核抑止でさえ通用しない。ましてや通常兵器が抑止になるなんて絵空事です。それを真に受けて日本では抑止理論で威嚇することで防げると言っています。かえって戦争を引き起こすだけで、抑止で戦争は防げません。

米ロが直接対決を避けているように米中が全面戦争することは私もないと思います。私たちにとって問題なのはそっちじゃなくて沖縄や、日本、台湾がその戦場になって代理戦争をやらされるかどうかということです。本当に危ないです。同盟と抑止にばかり依存する安全保障政策はヨーロッパで行われている戦争を東アジアに持ってくる、飛び火させることになりかねない。ロシア、中国、北朝鮮も加わった対決となると第３次世界大戦になる危険もあります。

岸田さんや、バイデン、プーチンなどにまかせておいてはダメなんです。戦争で死ぬのは指導者ではなく国民です。

今の戦争はウクライナで見るとおり、市民の頭の上にバラバラと爆弾やミサイルが落ちてくる。死ぬのは国民です。「死ぬのはイヤだ」「戦争はイヤだ」このことをもっと声を大にして言っていきましょう。

ではどうやって戦争回避の外交戦略を進めるか。

**戦争ストップ　九条は大きな力**

日中不再戦。台湾は中国の一部だという中国の立場を尊重する。日中共同声明の立場を堅持することです。

アメリカに対しては中国を過度に挑発することはするなと言う必要があります。憲法九条で日本が守れるのかという人がいますが、私は九条は戦後日本を守ることに貢献してきたと思います。九条を変える、壊すことはあってはならない。なぜならば日本の安全保障が危うくなるからです。一つはこちらが攻める気はないよという意思表示がなければ戦争になる。憲法九条は世界的に知られた意思表示です。かつてアジアを侵略した日本が世界８位の軍事大国になっても日本が脅威を与えなかったのは憲法九条があるからです。専守防衛しかやらないと理解し許されてきました。それがなくなったら、日本が来る前にこっちからやった方がいいというふうに発想転換することになります。

集団的自衛権行使容認でこれをひっくり返したのが安部さんです。

九条によってアメリカの戦争に巻き込まれるのを防いできたし、軍事より国民生活、福祉、教育、医療に政治の軸を置いてきたのも事実です。

今これを壊そうとする政治の流れにストップをかけることが必要です。

（文責事務局）

# 私のひとこと

## 政権の危険な「国民だまし」を知ろう

（浅間町　皆川和枝）

小学5～6年ごろ、授業で「新聞の読み方」を学んだ。先生は、「新聞の小さな見出しのところに大事なことが書いてある」と教えてくれた。

今朝の朝日新聞をひろげたら、「児童手当の所得制限撤廃」との大見出し、サブタイトルで「政府素案　来年度から支給検討」に目が止まった。財源は？と読み進むと小さな見出しに「財源先送り」とある。小さな文字を我慢して読み進むと、徹底して社会保障の歳出削減をし、税金の扶養控除を無くすようだ。その上、「支援制度」と称し、保険料に上乗せして国民から徴収するが、実施時期は明確にしていないとのこと。国民だましの徹底した総選挙対策である。にも拘わらず、こういう見出しでの報道では、政権の宣伝紙ではないかと言いたくなる。

岸田首相が「すべての分野で軍備優先」とした通りに政治はつき進んでいる。従来の5兆円の軍事費を10兆円超にする財源づくりに、国民の命と暮らしはどれほど犠牲にされるのか。いまの新聞、テレビの情報のあり方では問題の本質がつかめない。このままだと、国民は情報にあおられて、望んでもいない戦争への道に進んで行きかねない恐ろしさを感じる。総選挙が近いと言われている。この詐欺的政治を見破り、憲法に規定されている誰もが尊重され、平和に生きる社会に変えていくには、どうしたらいいか？　一人でも多くの人がこの危険な事態を知ることしかない。

## G7サミットと憲法9条

（中央町　高橋康夫）

5月21日、G7広島サミットが閉幕しました。ウクライナのゼレンスキー大統領も飛び入り参加して現状を訴えましたが、果たしてこの会議の成果はあったのでしょうか。

空爆や戦闘で傷つくウクライナの国民にとって、戦争の終結あるいは停戦の実現がなにより希望するものであったと思います。残念ながらG7では、戦闘機などウクライナへの武器供与の提案はありましたが、これまでの経過が示すように高度な武器へとエスカレートするばかりで、消耗戦が続き核兵器の使用が現実になる可能性は否定できません。

「国際紛争を解決する手段として、武力の行使を永久に放棄する」憲法を持つ日本がG7の中で戦争終結のために大きな役割を果たすべきでした。紛争関係国を含む話し合いによる戦争終結への提案がなされなかったのは非常に残念でした。

大国間の思惑・利害が優先されるべきではありません。今からでも遅くはありません。国連の機能を最大限活用して早期にウクライナの戦争をやめさせるべきです。

## 「滝山スタンディング」声を交わして今日も元気！

（下里　大野英男）

滝山地域では、その時々、私たちの願いとはことなる社会問題に対する抗議活動、大きな自然災害の支援募金など、街頭での訴えを「スタンディング、募金、署名、シール投票」など、いろいろな形で行っています。

〈最近のスタンディング：「戦争法反対」「ウクライナ支援募金」「安倍国葬反対」「大軍拡・大増税反対」など〉それには、「戦争はいや！声をあげよう実行委員会」「九条の会」の取り組みもあります。

4ページへ

スタンディングでは、横断幕を作成して、市民が見てすぐわかるような工夫もして、私たちと市民が同じ気持ちになれるように努めています。

「ロシアのウクライナ侵略抗議・募金」（2022.3.13）

「お買い物　瞳と瞳で語る　スタンディング」
「スタディング　声を交わして今日も元気」

とくに、昨年のウクライナ侵略では、「ロシアはウクライナ侵略をやめろ！」の大きな横断幕を掲げて、抗議と募金を精力的に取り組み、多くの市民の方が募金（約30万円）をしてくれてよかったです。

政治が、次々と「大軍拡、大増税・・・」などの悪政を強いてくるので、まだまだ抗議の「スタンディング」を続けていきたいと思います。

## 5・3憲法大集会開催

有明防災公園で「新たな戦前にさせない！守ろういのちとくらし2023憲法大集会」が開催され、2万5千人が集結しました。

## ―上映会のお知らせ―

沖縄と戦争をテーマに取材を続けている映画監督の三上智恵さん。来年劇場公開をめざすドキュメンタリー映画用の素材をより早く、全国の市民と危機感を共有したいとの思いで貸し出しています。東久留米でも上映の日程が決まりました。

**『沖縄、再び戦場へ』（仮）スピンオフ作品と講演会**
**7月17日（月・海の日）**
**午後2時～4時**
**資料代500円**
**成美教育文化会館大研修室（3F）**
**講演会：高阪由紀江さん**

ねりま9条の会会員。5月に宮古島、石垣島、与那国島へ行き、現地を見てきたレポートを、写真をまじえてお話していただきます。

主催・問い合わせ先：戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会
090-6010-2237（大山）

## ≪平和を考える本≫

**『三つ編み』**
（レティシア・コロンバニ　作）
（早川書房　1600円＋税）

3つの大陸で、3人の女性が生きる3通りの人生。インドで――不可触民（ふかしょくみん）のスミタは、娘を学校に通わせ、悲惨な生活から抜け出せるように力を尽くすが、願いは断ち切られ…。イタリアで――家族経営の毛髪加工会社で働くジュリアは、父の事故を機に倒産寸前の会社を任されるが、金持ちとの結婚こそが解決策だと母は言って…。カナダで――シングルマザーの弁護士サラは、女性初のトップの座を目前に癌の告知を受けるが、それを知った同僚たちの態度は豹変して…。3人が勇気を奮い、運命と闘うことを選んだとき、美しい髪を辿って、つながるはずのない物語が差する。

（高田桂子）